

2023年9月15日

報道関係各位

大丸有アートアクション実行委員会
一般社団法人東京ビエンナーレ

東京のビジネスセンター「大丸有エリア」で広がる、国際芸術祭のアートプロジェクト
アーティストがまちに滞在し様々な作品が登場
大丸有アートアクション 開催

秋会期（成果展示）：2023年9月23日（土）～11月5日（日）

大手町・丸の内・有楽町エリア（以下 大丸有エリア）のまちづくり団体*と三菱地所で組成する大丸有アートアクション実行委員会と、一般社団法人東京ビエンナーレ（東京都千代田区、代表理事中村政人）は、**東京のまちを舞台に2年に1度開催する国際芸術祭「東京ビエンナーレ 2023」の会場の一部で、大丸有（大手町・丸の内・有楽町）エリアを中心に展開するアートプロジェクト「大丸有アートアクション」を開催いたします。**

*一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、特定非営利活動法人大丸有エリアマネジメント協会の2団体

本年で2回目の開催となる「東京ビエンナーレ 2023」は、「**リンケージ つながりをつくる**」をテーマに、2023年7月～9月のアーティストによる制作期間・プロセス公開を経て、**2023年9月23日（土）～11月5日（日）の期間に成果展示を行います。**

東京を代表するビジネスセンターで展開する「大丸有アートアクション」では、これまで数多くの国や地域において、持続可能性や多文化共生などをテーマに市民参加型アートプロジェクトを実践し、オーストラリアを拠点とする Slow Art Collective が、誰もが参加できるスローアートのためのオープンスペース「**Slow Art Collective Tokyo**」を創出。また、確かな画力を持ち、DJとしても活躍する若手アーティスト・Charlotte de Cock を招聘し、世界的に提唱されるクリエイティブ・ヘルス（アートが処方箋となる健康、ウェルビーイングへの課題解決）の視点から、「**HYPERNOVA**」と題した作品を、大手町ファーストスクエアの壁面に直接描きます。そのほか、写真、CG、油彩と3つの制作工程を経る独自の手法で活躍する画家・薄久保香が、大丸有エリアの街に実在する女性たちへの取材を通し、その人物の内省的世界を描く壁画作品「**すぐ傍に見つけたあなたの分身**」や、日本在住の海外ルーツの方々を感じる、日本での日常生活にある文化的差異の中にクリエイションを見出した作品を展示する **IMM 東京 公募展「It's Not a Cultural Showcase, but a Window to the Soul**」など、様々なアートプロジェクトに触れることができます。



写真上左から、Slow Art Collective Tokyo、IMM 東京 公募展「It's Not a Cultural Showcase, but a Window to the Soul」イメージ
写真下左から、Charlotte de Cock 作品、薄久保香 作品 イメージ

本イベントを通して、大丸有エリアの企業とワーカーや来街者による地域コミュニティ、そして東京ビエンナーレで活動するアーティストやその創作プロセスに参加する方々とのあたらしい“つながりをつくる”持続的なコラボレーションを目指し、より多くの人々にアートを通じて社会課題や地域課題を考える機会を提供いたします。

大丸有アートアクション 開催概要

プロジェクト名：大丸有アートアクション

実施者：大丸有アートアクション実行委員会

(一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、特定非営利活動法人大丸有エリアマネジメント協会、三菱地所株式会社)

実施日程：2023年9月23日(土)～11月5日(日)

実施場所：大丸有エリア各所

実施プロジェクト詳細：

■ Slow Art Collective Tokyo (Slow Art Collective)

Slow Art Collective はオーストラリア・メルボルン在住の加藤チャコとディラン・マートルが主宰する芸術グループ。持続可能性や多文化共生をテーマに、竹やロープなどの自然素材、街で拾い集めた素材を用いた市民参加型のアートプロジェクトを行います。 <https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/slow-art-collective-tokyo/>

尚、本アクションは大丸有エリアを起点に SDGs を推進する大丸有 SDGs ACT5 実行委員会協賛のもと、実施されています。専用の ACT5 メンバーポイントアプリに会員登録頂き、各会場で SAC のアート制作に参加することで ACT5 メンバーポイントが獲得できます。

獲得ポイント数等の詳細はこちら(<https://act-5.jp/act/2023act5-5/>)

*「ACT5 メンバーポイントアプリ」とは

ACT5 メンバーポイントアプリとは アプリを用いて個人の SDGs 活動にポイントが付与する仕組み。マイボトルやエコバックの持参、古くなった衣類の回収協力や SDGs 関連イベントへの参加など SDGs 貢献活動に参加することでポイントを獲得でき、さらに貯まったポイントを、サステナビリティに配慮された商品との交換、SDGs 貢献団体への寄付、丸の内ポイントへの交換などに利用できます。 (<https://mb.act-5.jp/>)



■ Charlotte de Cock (シャーロット・デ・コック/ベルギー)「HYPERNOVA」(「東京のための処方*」プロジェクト作品)

東京の経済活動と文化芸術が交差する大丸有エリアを舞台に、屋外壁画を制作。「Schön! Das Leben ist Schön! (美しい! 人生は美しい!)」をスローガンに掲げ、箱に閉じこもることからの解放を訴えます。タイトルの「ハイパーノヴァ」は、人間の創造性のエネルギーと私たちを取り巻く環境との循環、つながりを意味しています。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/self-potrest/>

*「東京のための処方」とは

東京ビエンナーレ 2023 で実施するリンケージの一つ。民族の歴史と差別、地域の文化の可視化、ディスコミュニケーション、危機と安全、ケアと回復など、それぞれのテーマをもち、取り組みを深めている 6 人のアーティストたちが、作品を通じてそれぞれの世界観に基づいた東京への視点、またはフレーミングを提示していく試みです。アーティストはそれぞれ都内に分散するユニークな場を発表の会場としますが、全体として、現在の世界に横たわる様々な分断をくぐり抜け、社会が回復するための文化的処方として実施します。

■ 薄久保香「すぐ傍にみつけたあなたの分身」

写真、CG、油彩と3つの制作行程を経る独自の手法で、「意識だけでコントロール出来ない世界」を描き出さず薄久保香が、この街に実在する数名の女性たち取材し、その人物の内省的な世界を描きます。薄久保と女性たちの共同制作ともいえるこのシリーズは、複写とデジタル加工を経て「壁画」(シールプリント)として街の複数箇所に掲げられます。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/your-alter-ego-found-right-next-to-you/>

■ IMM 東京 公募展「It's Not a Cultural Showcase, but a Window to the Soul」 (IMM Open Call Project Team 2023)

岩井成昭が主宰するイミグレーション・ミュージアム・東京 (IMM 東京) は、日本国内に在留する海外ルーツの人々の日常生活や、言葉だけでは伝えきれない想いを、まちなか美術展として実施します。展覧会名は「It's Not a Cultural Showcase, but a Window to the Soul」(それは文化のショーケースではなく、心の窓)。オフィスビル等のフロアの一部にある「ショーケース」を都心の地域資源としてとらえなおし、IMM 東京の展開する公募展会場として活用します。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/imm-open-call-exhibition/>

エリア周辺プロジェクト情報

■天馬船プロジェクト 2023/日本橋川 [タイムトライアル] (コマンド N ほか)

木造和船を模した長さ約 30 cm のミニ天馬船 1 万艘が、日本橋川の流れにまかせて進む風景を楽しむコミュニティアートプロジェクト。日本橋をゴール地点として上流から一斉にスタート。地域を盛り上げ、世界に向けて日本橋川の魅力と価値を発信します。タイムトライアル参加登録費の一部は、到着順に応じた記念品贈呈と、河川浄化、水辺活性、文化振興、伝統的な天馬船制作などに活用。ミニ天馬船は杉の間伐材を使って制作されており、イベント終了後には回収・洗浄して再利用します。

イベントへの参加や寄付を通して、人々の河川への意識を少しずつ変えていくことを目指して開催されます。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/tenmasen-project-2023-nihonbashi-river/>



■「池田晶紀写真展：写真でつながる街と街～大手町・神田」

大手町川端緑道（東京都千代田区大手町 1-9）に設置中の仮囲い壁面を活かした、写真で大手町と神田をつなぐアートプロジェクト。写真家の池田晶紀が 10 年以上にわたり撮影してきた神田の人々のポートレート写真から約 10 点を選んだ「いなせな東京」と、大手町の植物を撮影した「series “DOUBLE NATURE” 『模様』」を展示中。



Photos by Masanori Ikeda

東京ビエンナーレ

“東京”のまちを舞台に“2 年に 1 度”開催する国際芸術祭。世界中から幅広い分野のアーティストやクリエイターが集結し、まちや人々の営みに深く入り込み、地域住民の方々と一緒に作り上げる芸術祭として始動。第 2 回となる東京ビエンナーレ 2023 のテーマは、「リンケージ つながりをつくる」。リンケージ（Linkage）とは、関係性＝つながりを意味し、人間関係に限った事柄だけではなく、場所、時間、生物、植物、できごと、モノ、記憶、情報等、あらゆるものが複雑に絡み合い変容しながら存在する世界に、わたしたちが見いだしていく「関係性＝つながり」への希望と決心をあらわしている。

開催概要

名称：東京の地場に発する国際芸術祭 東京ビエンナーレ 2023

テーマ：リンケージ つながりをつくる

会期：夏会期 2023 年 7～9 月【プロセス公開：作品が生まれる現場や過程に様々な形で参加可能】

秋会期 9 月 23 日（土）～11 月 5 日（日）【成果展示：完成した作品をめぐる東京都心を街歩き】

開場：東京都心北東エリア（千代田区、中央区、文京区、台東区の 4 区にまたがるエリア）の歴史的建築物、公共空間、学校、店舗屋上、遊休化した建物等

入場：無料（一部プログラムは有料※）

公式 HP：<https://tokyobiennale.jp/>

TOKYO
BIENNALE 2023

【ご参考】大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり3団体について

大手町・丸の内・有楽町地区は、公民協調によるまちづくりを通じ、全域約 120ha におよぶビジネスセンターにおいて、企業にも来街者からも選ばれる、都市の「新しい価値」「魅力と賑わい」の持続的な創造に取り組んでいます。

大丸有まちづくり協議会を中心に公民でまちの将来像を合意し、リガーレが賑わいを生み出すエリアマネジメントを促進、エコツェリア協会が社会課題の解決や企業・地方都市との連携によるビジネス創発を具体化しています。

一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会 (大丸有まちづくり協議会)

再開発・街づくり・地権者合意形成

大丸有地区の地権者を会員とし、エリアの付加価値を高め、
東京の都心において持続的な発展に向けた取り組みを行っています。



一般社団法人 大丸有環境共生型
まちづくり推進協会 (エコツェリア協会)

サステナビリティ/Research & Development/環境共生

「経済」「環境」「社会」がバランスよく共存するまちを目指して、
大丸有地区に集う企業・事業者のコミュニティ形成や、
次世代への持続可能なビジネス創発に取り組んでいます。

NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会
(リガーレ)

エリアマネジメント運営

道路を始めとした公的空間の活用や、交流・環境などの活動を通じて、
大丸有地区のブランド向上に取り組んでいます。

〈大丸有まちづくり協議会 35周年について〉

大丸有まちづくり協議会は 1988 年の設立から本年で 35 周年を迎えました。当初は大丸有地区再開発計画の推進に向け、主にハード面から街の将来像を描くことを軸とし、公民協調による協議を重ねて参りましたが、ビル単体に留まらない魅力ある場の創造や、都市活動を支えるエリアマネジメントといった、まちづくりのソフト面が果たす役割が重要視されていく中、約 100 棟のビルと、大手町から有楽町まで全長約 1.6km に及ぶ仲通りなどの公的空間を含めた「面」で取り組む価値創造を進めております。今後も、各領域の先端を担い続ける街であるために様々な活動を推進してまいります。

〈本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先〉

大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり PR 事務局 共同ピーアール(株) PR アカウント本部 11 部 担当：内山・田口

TEL：070-4303-7327/090-7739-1083 E-mail：tokyo-omy-pr@kyodo-pr.co.jp